

点検の不動産利活用

第38回

一般財団法人日本不動産研究所

北栄町は、05（平成17）年北栄町と大栄町が合併して誕生した町で、鳥取県中部に位置し、総面積約57平方キロ、人口は約1万4000人で、中心部の由良に町役場が置かれている。由良は山陰道（伯耆街道）が東西に通る交通の要衝であったが、江戸時代、由良川の水利と交通の便を利用し、由良宿内に年貢米2200俵格納可能な13棟の藩蔵が建設され、由良は港町、宿場町として大きく発展した。今でも、大きな屋敷が古い町並みに残り、かつての繁栄をしのばせる。

北栄町は、海岸沿いに砂丘地域が多く、大山の噴火による黒ボク地帯が広がり、また、日本海からの強風など、農業生産への条件は不利であり、周年栽培が行われていない。うじょうな大地となった。黒ボク地帯では、スイカを中心としたハウス栽培が行われ、ダムからのかん水による、良駅から青山剛昌ふるさと館までの1・4キロの「コナン通り」には、コナンのブロンズ像などが点在しており、いろいろな場所ですべて「名探偵コナン」のキャラクターたちが出会う。JR由良駅は、「コナン駅」の愛称で親しまれている。



⑥北条ワイン。砂丘の水はけがよく、良質なブドウの栽培に最適。そのブドウから造られたワインは努力の成果だ
⑦風車。市町村直営では国内最大級。日本海からの強風を生かす



⑧青山剛昌ふるさと館「コナン駅」と呼ばれる由良駅

北栄町では、日本海からの強風という地域特性を生かす

北栄町では、出身者をまちづくりに活用し、不毛地帯を有力な農業地域に生まれ変わらせている。地方では、当分の間、このような地道な努力を積み重ね、社会構造の変化に備え、厳しい状況を耐え抜くしかない。

（鳥取支所、不動産鑑定士・向井伸）

不断の努力で豊かな農地に

まちづくりに自然環境、出身者を生かす 鳥取県北栄町

北栄町では、日本海からの強風という地域特性を生かす

北栄町では、日本海からの強風という地域特性を生かす



⑧青山剛昌ふるさと館「コナン駅」と呼ばれる由良駅



た、感染症、テロ、大規模災害の危険等、大都市への人口集中にはリスクを伴う。情報通信の発達により、必ずしも事務所への通勤、都市居住の必然性がなくなってきた。現在では、社会構造の転換のメリットは大きい。行政機能、事務所機能等の都市機能の地方分散を積極的に推し進め、人口の地方回帰を図り、国土の均衡ある発展を図るべきと考える。

北栄町では、出身者をまちづくりに活用し、不毛地帯を有力な農業地域に生まれ変わらせている。地方では、当分の間、このような地道な努力を積み重ね、社会構造の変化に備え、厳しい状況を耐え抜くしかない。

（鳥取支所、不動産鑑定士・向井伸）